

会 議 録

会 議 名	令和3年度第2回小金井市市民協働推進委員会		
事 務 局	市民部 コミュニティ文化課		
開 催 日 時	令和3年9月28日(火) 19時00分～20時00分		
開 催 場 所	第5会議室		
出 席 委 員	田中敬文 委員長 邦永洋子 副委員長 森田眞希 委員 熊谷紀良 委員		
欠 席 委 員	植草康仁 委員 西田 剛 委員		
事 務 局 員	1 小金井市 コミュニティ文化課長 河田京子 コミュニティ文化課文化推進係長 岡本和晃 コミュニティ文化課文化推進係主任 津端友佳理 2 小金井市市民協働支援センター準備室 三崎 市民協働推進員 北脇 市民協働推進員		
傍 聴 の 可 否	一部不可		
傍聴不可・一部不可 の場合は、その理由	不可 (協働事業提案制度に 関する内容であるため)	傍聴者 数	0人
会 議 次 第	(1) 令和2年度小金井市市民協働支援センター準備室の 活動状況について (2) 令和4年度実施協働事業提案制度の募集要項について (3) その他		
会 議 結 果	別紙のとおり		
会 議 要 旨	別紙のとおり		
提 出 資 料	(1) 令和2年度小金井市市民協働支援センター準備室の活動状況 について一式 (2) 令和3年度(令和4年度実施)小金井市協働事業提案制度募 集要項(案)		

**【田中委員長】** それでは、皆様、こんばんは。ただいまから、令和3年度第2回小金井市市民協働推進委員会を開会いたします。

本日の会議は、傍聴可能となっておりますが、協働事業提案制度に関する議題については非公開となります。

それでは、まず配付資料の確認を事務局からお願いいたします。

**【事務局】** それでは、資料の確認をさせていただきます。本日の会議資料は、次第を除いて合計2点となります。

まず1つ目は、資料1としまして、令和2年度小金井市市民協働支援センター準備室の活動状況の一式。次に資料2、令和3年度（令和4年度実施）小金井市協働事業提案制度募集要項（案）。

以上、2点、お手元がない方、また、不備不足等ございましたらお申しつけください。

**【田中委員長】** 皆様、よろしいでしょうか。

それでは、まず1番です。令和2年度、昨年度ですね。小金井市市民協働支援センター準備室の活動状況についてです。

準備室から御報告をお願いいたします。

**【事務局】** 皆様、こんばんは。準備室の三崎と申します。昨年度の状況を御報告させていただきますと思います。

1番、2番は、通常どおりの内容です。活動内容としましては、相談件数は、こちらのほうの数字となっております。

具体的には、ページをめくりまして、主な相談、コーディネートアンケートの状況ですけれども、この中で、本日は、2点に関して主に御報告させていただこうと思っております。

昨年は新型コロナウイルスの影響がスタートしたところで、まず1点目としましては、支援に関する要望書を小金井市長さん宛に出してはどうかという話が始まったところから4月はスタートいたしました。邦永委員にもお話をいただきまして、NPO法人連絡会、それから、福祉NPO連絡会のNPO団体さんの皆様にアンケートを発信いたしました。国内、都内、いろいろ状況を調査しますと、助成金の申請ですとか、他市でも要望書というのを出されているところを調べまして、そういう形ではどうですかとお話を進めました。

5月に、要望書関連についてアンケートを発信しまして、そちらの取りまとめをして、主に、新型コロナウイルスによる現状とお困りごとや要望書の内容について何か御要望されたいものはございますかという形でお伺いいたしました。

6月9日、コミュニティ文化課さん宛てに要望書を提出いたしました。要望書の詳細に関しまして6点ありました。基本的には補助金の支払いですとか、いろいろなケア、支援をお願いしますというところでした。その中で、福祉事業所さんが一番困っていらしたと事務局はよく実感しまして、市や学校など、各機関との連携が必要な事業では、その連絡支援ルートを確立し、事業者や利用者さんが孤立することなく継続支援ができるようお願いするという御要望がありました。こちらのほうがほかの市にはない項目として、小金井市NPO法人連絡会さん独自で出されたという内容になっています。事業所さんたちが、日々の活動ができない。それから、販売、そういうことの機会も失われてしまっているというところで、大変困窮されているんだなということが分かったところでした。

それに伴いまして、では、事業者さんたちは今後どういうことが必要なのかなというふうに考え、共同受注はどんなふうに行われているのかなということ、夏から調べ始めました。東京都は、NPO法人日本セルフセンターというところが都で委託事業となされていて、東京都内は大体20か所ぐらいが、運営主体が行政だったり、社会福祉協議会だったり、NPOさんだったり、そういったところが主体になって運営されていて、皆さんの販路を拡大するためのことをなさっているんだなということをお調べしました。その中で、練馬区さんとかがちょうど社会福祉協議会で、そちらの新規受注、販路開拓に向けての事業をしていると調べて、こちらの社会福祉協議会とお話ししました。

市内のNPOの定例会にも出席し、話を伺いました。なかなか事業者さんたちも、皆さんすでにつながりがあるわけではなく、半数はつながりがない団体もいらして、外部販売化したいという気持ちがあっても、なかなか全体に御連絡すること、アナウンスすることができないというのもあり、なかなか共同受注に取り組みにくいということをお伺いしました。

実際には東京都も、そちらの共同受注について、しっかりとスタートしなくても、学ぶという段階でも登録という形も可能ですよと伺いました。ちょうど今年度、調布市の施設の方から、外部販売会をしませんかという形でお話をいただきましたので、市内のホステルでの外部販売会ということもやり始めて、秋には再度同じようなことをやるという形で、今、進めております。

まだ具体的に共同受注がどんなふうに進んでいくかというところは、なかなか具体的にはないですけれども、他市ですとか、東京都内の状況をちょっとまたさらに学びながらお話を皆さんに伺っていただけたらなと思っております。

以上です。

**【田中委員長】** どうもありがとうございました。

それでは、委員の皆様から御質問等ございますでしょうかね。

**【熊谷委員】** 販売機会のお話について、やっぱり御相談を受けたりしたことはありますか。

**【事務局】** 事業所さんが活動できないと、事業者さんの経営に関して本当に厳しくなりますし、あと、そこに通所していらっしゃる方も活動機会を失っている。それから、それを経営する方たちも、基本的にケアをしようと思って経営していらっしゃるって、こういうふうな災いが起きると、その事業者さんたちも御自身が大変になるということが少し分かって、このような災いみたいな形になるのは本当に初めてだし、人的支援が受けられないというところで、持久力というのがなかなか難しいんだなというところは要望書の段階でも理解したところでした。

**【熊谷委員】** オンラインとか何かつながる機会があるときに、なかなか集まれないとかあったりとか、そういうお話はあったりしましたか。

**【事務局】** ありました。最初はオンラインの前に、メールでのやり取りからスタートさせていただいて。要望書も、邦永委員からスタートして、皆さん、どうですかという形で、御一緒にお話を伺うところからでメールからスタートしていました。

**【熊谷委員】** とにかくもう人がなかなか集まれない中で、どういうふうにやったらいいとか、結構そんな御相談も多かったものですから、すごく事業上、困っているところと、コミュニケーションで困っていらっしゃる場所、小金井の場合、結構あったのかなと思って。

【田中委員長】 どうもありがとうございます。

ほかにはいかがでしょうか。どうぞお願いします。

【森田委員】 私も例えば、建物の改装のこととかを、たまたま知り合いの工務店さんから、こういう助成があるよとタイムリーに教えてもらって、そこからつながって、ああ、そんな助成金が、全然業種の違うところに来ていたんだということを知って、お願いするということがあったりしたんですけども、やっぱり縦割りのそれぞれの中で、「それはうちもそこにかかってくるな」「それが使えるな」というのを意外と知らないところがいっぱいあるので、同じ業種の中ではないけども、ちょっと違う他業種の中だったら該当するものがあったりするんで、ぜひ準備室さんも一緒に連携してもらえたらなと思います。

【田中委員長】 どんな補助金でしたか。

【森田委員】 タイトルはちょっと長すぎて忘れました。その工務店さんもすごく仲がいいので、たまたま電話があって、話してみたら、それはちょっと無理だけど、誰れさんが知ってるよとか、そういうふうにどんどんつながっていったので、ふだん仕事をしている中ではなかなか異なる分野の補助金を網羅できないので、そういう部分に対応して、代わりに調べてくれたり、代わりに申請書を作成したりしてくれると、すごく助かるなというふうに思いました。

【熊谷委員】 販売機会の確保、これも結構調べて、つながってというふうにやっていらしたと思うので、しっかりしていらっしゃるなというのを拝見して思ったんですけど、確かにコロナ禍でいろんな新しい給付金だとか、特別なのが出ていたりするので、その辺りが情報として少しストックできて、この機会に調べたりして、どんどんつながっていきけるといいですね。私たちも御一緒に情報提供ができたらいいなと思いました。

【田中委員長】 ほかにいかがでしょうか。

毎年同じことを質問していて恐縮ですが、3ページ目かな。情報収集のところでいつも気になっているのは、先進都市というのは何ですか。これはどんなところに行かれたのか教えていただきたいんですけど。調布市、練馬区、あともう1つは？

【事務局】 はい。府中市だったんですけども、事業所の販売会で、多摩市と府中市と調布市、3市がなさっているのがありまして、そういうのに小金井市も入れたらいんじゃないかなと思ひまして伺いました。

【田中委員長】 協働作業所は多いですね。多分そのネットワークというのがあって。熊谷さん、どの自治体でも今のような悩みというのは共通だったんですか。

【熊谷委員】 今の販売というところは非常にありますよね。だから、練馬区や調布市というのはそういうの見かねてというか、何とかしなきゃということがあって、そういう形ですごく研究されてという。協働でやりましょうという形だと思いますけど。

【田中委員長】 そういう場合、リーダーを取るというか、率先してやるわけだから。市の方ですか。それとも、やっぱりセンターの方ですか。

【熊谷委員】 例えば社協だとかNPOだというような方だと思いますけれども、そこに市の方が協力してくださっているところもありますし、どちらかというとなら協働してやろうということなので、やっぱり同じ目標同士でつながってやろうということと、あと社協は、またいろんな団体と一緒にやりましょうという形ですよ。社協自身も施設をやっていたりしますけど。

【森田委員】 実はNPO法人連絡会に、コロナ自粛に伴うの影響の支援もよろしくお

願いますと要望書を出しましょうと私のほうからも皆さんに言ったんですけど、でも、そのときにはあんまり何か反応がなくて、そんなに困っていないんだなど。困っていないわけではないんだけど、そんなことに一々答えている場合でもなかったという。

**【事務局】** 困ってはいたと思うんですけど、みんなまだコロナがどうなるか分からなくて、5月とか、ほわほわしていた時期かもしれないですね。二、三か月で終わるのかなという気がしていたけど、夏ぐらいになって、そうでもないぞとなってきたのかなと。絶対困っていたと思いますがいま助けを求めるときなのかわからなかったのかもしれないですね。

**【森田委員】** 二、三か月我慢すればどうにかなるだろうぐらいの気持ちのときだったかもしれないですね。

**【事務局】** 福祉の方がお店を出していたのは、御自身の持っている店舗と、あとはお祭りのイベントだったんですね。そこに御招待される形で、出店料は要らないから、地域のためにぜひ出てという、善意でゲストとして呼ばれている状態だったので、自分たちで何かイベントを起こして、そこで販売するというノウハウがなくて。そのなかでイベントが中止になってしまう。とすると、お呼ばれする回数がなくなる。もしやったとしても、やはり作業所の方がコロナにかかってしまったら、ほかの方より重症化するリスクもある。そうすると、やはり自分たちが手を挙げて活路を見いだすというか、そういうのもちゅうちょしてしまい、苦しんでいられるんだなという。

ただ、コロナも2年目になりましたので、ようやく落ち着いて、先ほどお話したようなホステルの敷地を利用した販売会などイベントもできるようになってきました。あとは応援弁当をやっているみたいに、福祉の応援お菓子販売会とかそういうのがあったら何かできるのかなとか思いながら、ちょっと考えて。。

**【田中委員長】** そこはみんなで知恵を出し合っていく必要がありますよね。

ありがとうございました。ぜひ今のお話を詳しく聴きたいなと思いましたが、とりあえず、市民協働支援センター準備室からの活動状況についてはよろしいでしょうか。

今出ました御意見等をこれからの運営にぜひ参考にしていただければと思います。

ここから、協働事業提案制度の審査内容にかかるため非公開

— 了 —